

様式 2

課題	<table border="1"> <tr> <td>継続・新規別</td> <td>継続</td> <td rowspan="3">担当課</td> </tr> <tr> <td>経常・特別別</td> <td>経常</td> </tr> <tr> <td>指示・自主別</td> <td>自主</td> </tr> </table>			継続・新規別	継続	担当課	経常・特別別	経常	指示・自主別	自主	<table border="1"> <tr> <td>開発箇所</td> <td>高岡</td> </tr> </table>	開発箇所	高岡	<table border="1"> <tr> <td>期間</td> <td>昭和60年度 ~ 昭和65年度</td> </tr> </table>	期間	昭和60年度 ~ 昭和65年度
	継続・新規別	継続	担当課													
	経常・特別別	経常														
指示・自主別	自主															
開発箇所	高岡															
期間	昭和60年度 ~ 昭和65年度															
<table border="1"> <tr> <td>昭和62年度実施計画</td> <td>評価および普及計画</td> </tr> </table>		昭和62年度実施計画	評価および普及計画													
昭和62年度実施計画	評価および普及計画															
全体計画	報告															
<p>1. 試験地設定</p> <p>(1) I、III令級林分の仕立本数別試験地</p> <p>(2) ぼうが林分の芽かき試験地</p> <p>2 調査事項</p> <p>(1) 仕立本数と生長量調査</p> <p>(2) 仕立本数と形質調査</p> <p>(3) 芽かきと保育体系の検討</p> <p>3 調査状況により昭和66年度以降の継続について検討する。</p>	<p>昭和61年度までの実施経過を記入のこと</p> <p>1. 試験地設定</p> <p>(1) I令級試験地</p> <p>ア. 宇佐川周有林 51.8林小班</p> <p>試験地面積 0.12 HA</p> <p>対照区 " 0.12 HA</p> <p>イ. 宇佐川周有林 54.8林小班</p> <p>試験地面積 0.29 HA</p> <p>対照区 " 0.29 HA</p> <p>(2) III令級試験地</p> <p>ア. 宇内山周有林 11.2林小班</p> <p>試験地面積 0.15 HA</p> <p>対照区 " 0.14 HA</p> <p>2 調査事項</p> <p>(1) 仕立本数調査</p> <p>(2) 生長量調査</p> <p>3 対照区設定</p> <p>4. 芽かきと保育体系の検討</p>	<p>昭和62年度実施結果を記入のこと</p> <p>1. 調査事項</p> <p>(1) 生長量調査</p> <p>別紙(様式4)のとおり</p> <p>(2) 仕立本数の調整</p> <p>1000本区</p> <p>2000本区</p> <p>設定</p> <p>変更計画</p> <p>仕立本数の調整</p> <p>すでに風による倒木が発生しており、(林の芽立ちのところで裂けている) 早期に林内を疎開すると風倒木の発生が予想されるため、62年度調整は見送り64年度に実施する。</p> <p>III令級林分については本実施計画から除外カットする。</p> <p>63.5.19 FEL 変更計画 造林課</p>	<p>生長量について</p> <p>概元各樹高共に対照区に比較して著しく生長しており、有用広葉樹林造成が期待できる。</p> <p>但し早期に林内を疎開すると風倒木が発生する恐れが予想される。間伐時期の検討が必要である。</p>													

(様式4)〜/

課題

広葉樹天然林の人工補整施業法

1. はじめに

天然生広葉樹林を人工補整林へ誘導するための人工補整の方法と投資効果を究明して施業体系を確立することを目的として試験を試みた。

2. 試験地設定

(1) I令級林分

ア. 設定

昭和60年度

イ. 場所

宮崎県東諸県郡高岡町埴尻国有林5㌔g林小班内
 去川国有林54㌔

ウ. 面積

5㌔g林小班内0.24㌔

54㌔林班は小班内0.58㌔

エ. 地況

5㌔g林小班

標高 400 方位 SE 傾斜 急 土質型 BC

54㌔林小班

標高 400 方位 S 傾斜 急 土質型 BC

オ. 林況

5㌔g林小班

広葉樹天然更新, 1年生

前生樹, 広葉樹49年生 ㌔当たり材積270m³

54㌔林小班

広葉樹天然更新1年生

前生樹, 広葉樹55年生 ㌔当たり材積250m³

カ. 設定方法

5㌔g林小班, 試験区 2プロット(0.03㌔と0.09㌔), 対照区2プロット(0.13㌔と0.16㌔)の4プロットを設定した。

54㌔林小班, 試験区 2プロット(0.13㌔と0.16㌔), 対照区2プロット(0.15㌔と0.14㌔)の4プロットを設定した。

カン、シイ、タブ、サクラ等の有用広葉樹のぼうが枝を1株当たり1-2本を残して芽かきを行う。

天然下種による種樹の刈出しを行う。

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する
 2. 状況写真は別紙整理する。

試験経過記録(その2)

様式 4

生長量調査

林小班	面積	根元径			樹高			HA当本数
		61年度	62年度	生長量	61年度	62年度	生長量	
	HA	mm	mm	mm	cm	cm	cm	
518	0.09	22	29	7	153	194	41	2556本
	0.03	23	30	7	155	202	47	3533
54は	0.13	18	26	8	158	223	65	2008
	0.16	25	37	12	194	287	93	1863

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録(その2)

3. 調査事項

(1) 芽かき後における生立本数

表-1

林小班	プロット	プロット内						㍉当り		
		カン類	シイ	タブ	イヌマキ	その他広	計	径級	樹高	本数
54g	1 試験区 面積 0.094㍉	本	本	本	本	本	本	■	m	本
	2 対照区 面積 0.094㍉									
	3 試験区 面積 0.034㍉	14	38	25	4	25	106	23	1.55	3,533
	4 対照区 面積 0.034㍉									
54h	1 対照区 面積 0.154㍉									
	2 試験区 面積 0.134㍉	13	76	46		126	261	18	1.58	2,008
	3 対照区 面積 0.144㍉									
	4 試験区 面積 0.164㍉	39	217	20		22	298	25	1.94	1,863

(3) 芽かき及び稚樹の刈出しに要した作業工程と経費

表-3

林小班	プロット	芽かき				稚樹刈出し			
		プロット		㍉当り		プロット		㍉当り	
		人工数	経費	工程	経費	人工数	経費	工程	経費
54g	1 試験区 面積 0.094㍉	0.625	7,500	52	62,500	0.5	6,400	4.2	53,300
	3 試験区 面積 0.034㍉								
54h	2 試験区 面積 0.134㍉	0.5	6,000	1.7	20,700	1.5	19,200	5.2	66,200
	4 試験区 面積 0.164㍉								

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

図-1 試験地位置図(51c 林小班)

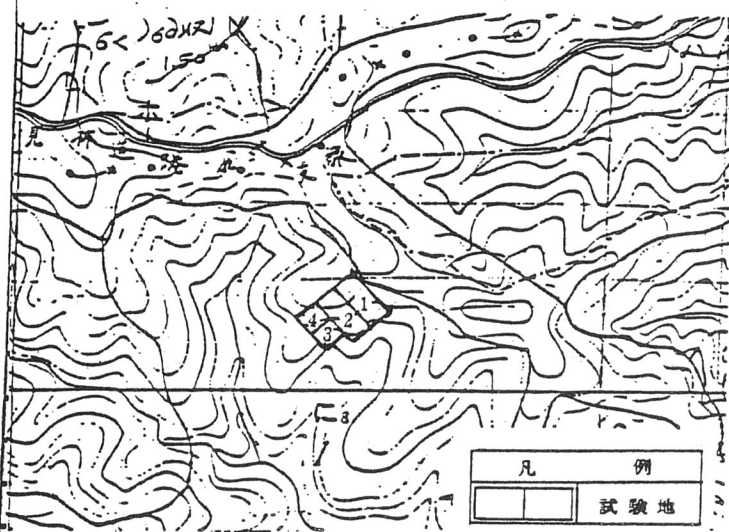


図-3 試験地位置図(54は林小班)

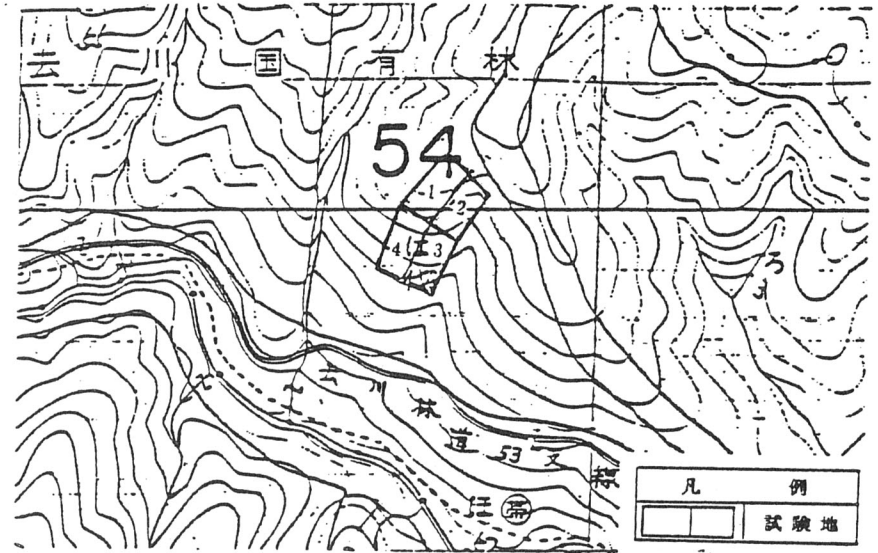


図-2 試験地設定図

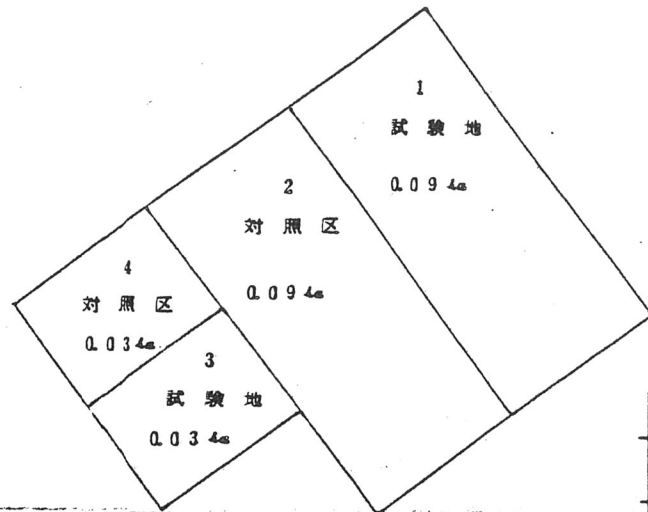
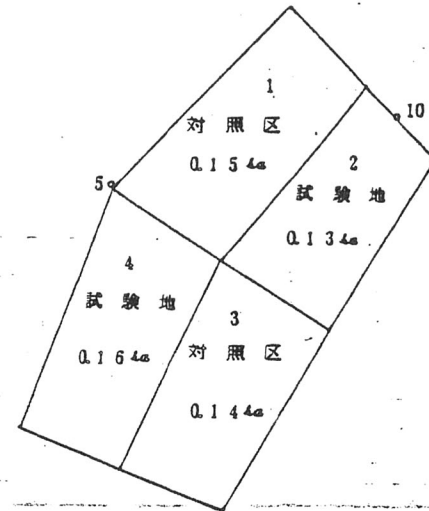


図-4 試験地設定図



記載要領 1 調査結果及び考察を記入する。
 2 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区 分 自主

高岡 営林署

(様式6)

林班 54は

試 験 地

対 照 区



FUJICOLOR BB



FUJICOLOR BB



FUJICOLOR BB



FUJICOLOR BB

状 況 写 真

区 分	自 主
-----	-----

高岡 営林署

(様式6)

林小班 51=8

試験地



FUJICOLOR 88

試験地



FUJICOLOR 88

状 況 写 真

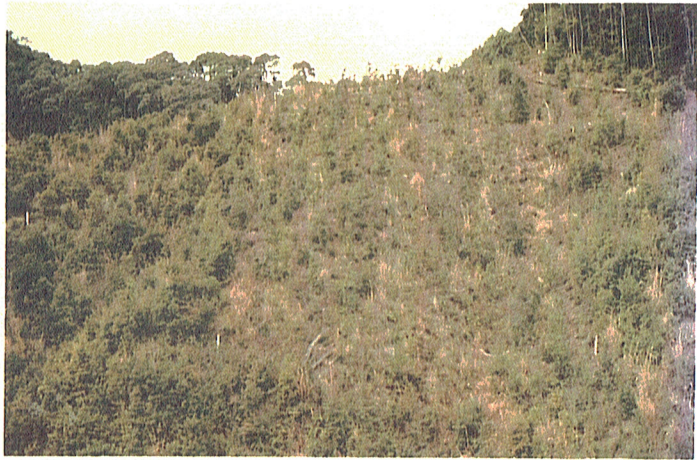
区 分	自 主
-----	-----

高岡 営林署

(様 式 6)

林小班 518

試 験 地



FUJICOLOR BB

対 照 区



FUJICOLOR BB